入選

不自由と思う人がいないこと

第五学年　R・D

わたしにとっての「平等」は、不自由だな、と思います。

なぜなら、だれか一人でも不自由だな、と思っている人がいたら、「平等」とは、言えないと思うからです。

例えば、ハードル走はみんなが「平等」に走るための、ハードル走の走る回数を決める、ハードル走がとくいな人や、足が速い人と、ハードル走の走る回数になったら、ずっと、まってなくてはいけないからです。

そうなると、待っている人は、もっとハードル走をしたいのに、不自由だな、と思うからです。

さらに、ハードル走が苦手な人や、足がおそい人は、なるべく速くハードル走で走る回数にたどりつかなくちゃと思い、あせってハードルに足をひっかけて転んでけがをするか

20 × 20

もしれなくて、けがをした人は、自分のペースでハードル走をしたいのに、不自由だなと思うからです。

だから、わたしにとっての「平等」は、不自由だなと思う人がいなくてみんなが楽しくすごせることを、「平等」と、言うと思います。